

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000124		
法人名	有限会社 兼清メディカルサービス		
事業所名	グループホーム浅江		
所在地	山口県光市浅江3丁目1-25		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 9 日	評価結果市町受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力医療機関が同一建物内にあるため、かかりつけ医による月2回の回診や、昼夜問わず特変時の診察や外来受診がスムーズに受けられる体制になっています。また、看護と介護による日々の健康チェックや内服管理を行い、急な体調変化や異変に気付いた際には医師にすぐに報告し、指示を仰ぎ、適切な対応ができるため、本人や家族の安心につながっている。介護と医療が密に情報交換・共有など連携をとり、看取りの支援まで適切な医療が受けられるように支援しています。

利用者一人ひとりが、本人らしく、楽しく、安心した生活を送ることできるように、利用者・家族としっかりとコミュニケーションをとり、良好な関係性の構築ができるように努めています。コロナ感染予防のため、家族の面会に制限があるため、行事や日々の様子の写真をたくさん家族に送ったり、来所時や電話やライン等を活用したりと、様子が分かるように工夫しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3591000124-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18		
訪問調査日	令和 5 年 1 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院なので、医療連携がいつでもできている。何かあればすぐ医療の指示を仰げるから安心である。また、ベテランの専属看護師が7人もいて、介護職と合わせて充実しているの言うまでもなく、学びの場は広がっている。コロナ禍で、面会が厳しくても、利用者の手紙、通信アプリ、一瞬の面会、電話で対応も充実していて、利用者の気持ちに添いやすくなっている。そんな心配りができる職員がいて、利用者とは別けて接することができ、また、ベテランの職員が、若い管理者と同じ目線を以ってバックアップ体制を取り、利用者が安心できる環境作りをしていた。他の施設では、資格だとか常勤だとかで、人間関係が気まづくなることもあるらしいが、「此处では、できることをみんなで助け合って行動している関係性ができていて、全く問題はない。」と、管理者は語ってくれた。また、職員間だけではなく、利用者や家族とも、どんなことも言いやすいし、聞き取りやすい。介護をしてきた看護師さんがほとんどで、介護に理解があり、また、介護を長年頑張ってきただけに、医療看護の重要性をしみじみ腑に落としている。管理者も職員とともに経営理念に向かうベクトル合わせに穏やかさを生んでいた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から職員一人一人が意識できるように事業所理念を掲示し、理念に沿ったケアができるように努めている。毎年、研修にて確認を行い、全職員が共有し、実践できるように努めている。	理念は、3階の廊下の掲示板に貼られている。研修や職員会議で、理念を共有する機会を設けている。研修では理念一つ一つの意味を事例に則って伝達している。	原点に返りながら、良い理念だけに実践に反映できる取り組みを新たに磨いてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板や広報で地域の情報を得ている。例年は地域の文化祭に作品の出展や見学に行ったり、地元の敬老のつどいや、系列施設での行事(地元小学生来訪、ボランティア)に参加したり、職員が地元の中学校である徘徊模擬訓練に参加したりしていたが、今年度はコロナウイルス感染防止のため地域での行事が中止になり、行うことが出来ていない。	自治会に加入していて、自治会長との情報交換も円滑に行えている。地域の行事案内もあり、感染状況に合わせて参加・不参加を決めている。近くにある関連事業所と共同し、地域の社会資源としての役割を担っている。	地域とのつながりの輪をもっと広げてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は運営推進会議の場面や施設への来訪時に利用者の方と関わりながら理解を深めて頂けるように努めていたが、今年度はコロナウイルス感染防止のため、面会の制限があり、積極的に行うことが出来ていない。また、職員が地元の中学校である徘徊模擬訓練に参加し、講師として協力していたが、今年度は参加できていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について説明し、理解した上で、自己評価シートを全員に配布し、記入してもらっている。記入されたものを管理者がまとめて、出来上がったものを全職員で確認して作成している。外部評価で指摘された項目については目標達成計画を立て、職員や推進会議メンバーと話し合っ、改善に向けて出来ることから取り組んでいる。	自己評価を全職員に記入してもらうことで、職員一人ひとりが自らのケアを振り返る機会となっている。外部評価の結果を基に、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の状況や行事報告・行事予定、ヒヤリハット・事故報告、外部評価の結果報告等を行い、意見交換を行っていたが、今年度はコロナウイルス感染防止のため、集まるための会議を行うことが出来ておらず、文書の配布のみになっている。	委員は、市職員、自治会長、民生委員、介護相談員、認知症の家族を支える会会長、各ユニットの利用者家族、関連グループホーム職員となっている。今年度は、感染症の蔓延防止のため、書面開催としている。	
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席時や、役所へ出向いたときに直接意見・情報交換を行っている。問題や相談があるときにはその都度電話で連絡を取り、密に協力関係が築けるようにしている。	市への連絡・相談窓口は、管理者が行っている。市の担当者とは、気軽に何でも相談できる関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修や身体拘束適正化のための検討会議を行い、職員全員が正しく理解し、身体拘束をしないケアを意識して支援に取り組んでいる。利用者個々の状態や行動パターンを理解した上でケアを行い、拘束しなくても安全が確保できるように職員同士が連携しながら日々のケアに取り組んでいる。	研修を年に1回、委員会を3ヶ月に1回開催し、拘束ゼロに努めている。退院時に状態が変わることもあり、拘束が起きない方法を全職員で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、職員全員が正しく理解できるよう取り組んでいる。虐待のサインを見逃さないよう入浴時や着脱時の身体チェックを行っている。気になる言動があった場合には管理者が指導している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について研修を行い、職員全員が正しく理解できるように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時に事業所の詳細についての説明や、見学をしていただいている。契約時には入所にあたっての不安や疑問点について確認し、理解・納得を得られるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談や苦情の受付体制、処理手続きなどを家族に説明している。面会に来られた際に、職員から積極的に声掛けを行い、利用者について近況報告や、相談したりと気軽に意見や要望が言えるような関係性作りを努めている。コロナウイルス感染防止のため面会が制限されており、家族には電話やメールなどでこまめに連絡をとるようにしている。家族からの意見や要望は申し送りノートを活用して職員間で共有している。	小さな気付きでも家族へ電話で伝えていて、家族との絆を大切にしている。本人の嗜好も年齢と共に変化するので、差し入れの前に連絡することで喜んでもらっている。家族が差し入れに訪問した時、日ごろの様子も伝えている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や毎日の申し送り時に、業務内容や利用者へのケア内容について話し合う機会を設けている。職員の中で出た意見や要望があれば、その都度検討したり、毎月の重役会議で検討を行い、代表者へ報告するようになっている。	日常の会話の中で、勤務の希望などをさりげなく聞き取っている。重役会議には、各事業所の管理者や統括、医師、事務長が参加し、職員の思いを報告しているので、反映しやすい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の力量や勤務状況を把握し、それに応じた勤務内容や勤務形態にし、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会を開催していたが、コロナウイルス感染防止のため開催できていない。また、系列の病院での研修会にも参加していたが、感染防止のため参加できていない。職員会議時に内部研修を行っている。外部での研修は職員に情報を伝え、受ける機会を提供しており、研修に参加した後は、研修記録を作成し、職員会議時に復命をし、全職員が共有できるように取り組んでいる。	新人職員の教育については、1ヶ月以上は担当職員と一緒に勤務をして、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。感染対策を講じながら内部研修を開催し、研鑽に努めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年はグループホーム連絡協議会や外部での研修へ職員が参加する機会があったが、今年度はコロナウイルス感染防止のため、参加することが出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者や家族と面談を十分に行い、本人、家族の希望や要望、不安などを聞きとり、要望に合わせたサービスの提供ができるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を行い、家族の困っていること、不安、要望をしっかりと聞き、少しでも不安が解消し、安心してサービスを受けて頂けるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時、十分な話し合いを持ち、本人と家族のニーズをしっかりと見極め把握し、必要としているサービスを提供できるよう努めている。必要に応じて、サービス内容の変更にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの身体状態に合わせて、出来ることを利用者と職員が一緒になって行っている。又、コミュニケーションを大切にし、利用者についてより理解し、分かりあえる関係性作りに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には職員から積極的に声掛けを行い、利用者の近況報告したり、相談したりと気軽に意見や要望が言えるような関係性作りに努めている。コロナウイルス感染防止のため面会の制限があり、家族へ電話やメール、ラインでこまめに近況報告をする他、行事や日々の様子の写真をたくさん送ったり、ホームページに写真を掲載したりして情報共有に努めている。職員では対応出来ない状況の時には家族へ相談し、協力して頂いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止による面会制限・外出制限があるため、直接的には難しくなっているが、手紙や年賀状のやり取り、携帯電話の使用、電話の取次ぎ等をできる範囲で行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。	利用者同士が顔馴染みの関係となっていて、2ユニットが合同で行事をしている。また、関連グループホームへの行事参加もあり、法人内で馴染みの関係が作れている。入居してからの新しい馴染みの関係作りが出来ている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係性を十分に理解し、孤立せず、良好な関わり合いを持つことが出来るよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した場合でも、連絡を取り合い、必要に応じて相談や支援を行い、本人が安心できる生活環境作りの手助けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には本人・家族に生活歴や趣味の聞き取りを行い、関わる職員は把握するように努めている。また、日々の関わりの中で意向や要望が出れば、申し送り等で情報共有し、出来る限り意向に沿うようにしている。日頃からコミュニケーションを大切にし、何でも話せるような関係性を築けるようにしている。	意向の把握は、日々のケアから見つけ、職員同士で情報を共有し、利用者にとって心地よい関わりにつなげている。若い時、「カラオケによく行った。」「編み物が好きだった。」などが聞け、アクティビティの参考にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で聞き取りを行ったり、生活歴や暮らし方、趣味等をアンケートを行い、これまでの暮らしについて情報収集している。また、日頃の会話の中で本人から直接聞いたり、家族・知人から情報収集を行い、その人らしい暮らしが継続できるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、状態を記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。特変があった場合には「介護・看護記録」に詳しく記録する他、申し送りノートにも記入し、情報共有できるように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向に沿うよう、医師・看護師など多職種の意見を参考にして、担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直し、変更をしている。状態変化があった場合には、その都度、再アセスメント、担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。	新規利用者は、暫定プランを作成し、1ヶ月程度で見直しをしている。医師や看護師もプラン作成に協力的で医療面での意見を聞けていて、プランに活かしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容は個別に記録をする他、申し送りノートにも記入し、全職員が把握できるようにしている。個別の記録をもとに、介護計画を作成、見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせて、その都度本人や家族の意向を聞き、都合やニーズに合わせて柔軟に対応している。また、定期的なモニタリングや再アセスメントを行い、現時点のニーズを把握できるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は、系列施設での行事や小学生来訪時には積極的に参加したり、ボランティアの受け入れ、地域行事の参加を行っていたが、今年度はコロナウイルス感染防止のため、地域との協働を行うことが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一建物内にある医療機関がかかりつけ医で、月2回の訪問診療を受けられる。特変があった場合には、日中・夜間問わず医師へ連絡し、指示を仰いで対応したり、状態によっては診察をしてもらう等、適切な医療を受けられる体制がある。家族へは面会時や電話で身体状態について報告している。他科への受診は家族へ協力してもらっているが、困難な場合には職員が受診支援を行っている。また、毎月、協力医療機関と合同で会議を行い、医療連携の強化に努めている。	母体が病院なので、緊急時は日中・夜間問わず、いつでも医師へ報告・相談が出来る。状況によっては、夜間でも医師が訪問してもらっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職による毎日の健康チェックや状態観察を行い、異変の早期発見に努めている。同一建物内に医療機関があり、特変時にはすぐにかかりつけ医や看護師に報告し、指示を仰いで対応したり、状態によっては受診・回診にて診察を受けられる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、職員が付き添いを行い、日頃からの状態や状況の変化についての情報を直接提供するようにしている。入院中には病院関係者や家族と連絡を密にとり、治療の経過や本人の状態についての情報共有を行うようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての指針を家族に説明している。終末期には、再度意向の確認をし、本人、家族の要望に沿った対応ができるように、医療機関の協力のもと、出来る限り対応している。状況の変化に迅速に対応できるよう、家族とこまめに話し合いを行い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	契約時には家族に理解できるように伝えている。重度化になると、本人・家族の意向を聞き、主治医や看護師の意見を聞きながら、想いに沿った対応をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	ヒヤリハット・事故報告書にその場にいた職員が状況を記録し、今後の対応策を検討している。他職員へは申し送りや報告書を回覧し、全職員が共有できるようにしている。また、毎月、事故対策会議を行い、利用者の身体状況に応じた事故予測や防止策を考え、再発防止に努めている。事故対応が出来るよう、内部研修にて心肺蘇生法や転倒・転落・誤薬時の対応についての研修を行い、全職員が知識や技術を身につけることできるように取り組んでいる。	月に1回事故対策会議を開き、事故報告書・ヒヤリハット報告書の内容について話し合っている。会議で話し合った対応方法を全体に周知し、再発防止に努めている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災を想定した避難訓練、消火訓練、通報訓練を利用者と一緒実施している。災害の際には、同一建物内にある医療機関や系列施設の協力体制がある。火災時の消防署へ直通の通報装置の設置や職員の緊急連絡網の設置をしている。また、自治会長さんへ相談し、災害時要支援者リストへ当施設も入れていただいている。	ハザードマップ上では、災害区域から外れているが、飲料水、冷凍ご飯、スープなど5日分の備蓄をしている。備蓄食品は、賞味期限を管理し、更新している。賞味期限が近くなった時は、試食して防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報とプライバシー保護についての研修を行い、職員全員が正しく理解できるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりのその人らしさを大切に、その方に合った対応を心がけている。また、言葉遣いには気をつけ、自尊心を傷つけないように注意している。	呼称は基本的に苗字に「～さん」を付けている。同姓の利用者がいる場合は、下の名前に「～さん」を付けて混乱しないようにしている。利用者からの要望は家族と相談して確認を取って呼称している。個人的に話をする時は、プライバシーに配慮して居室へ誘ってマンツーマンで話をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で、利用者が何でも言いやすいような関係性や雰囲気作りを心がけている。利用者が希望を表すことのできるように声かけを行い、自らが決めてもらえるような支援を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを把握し、個々のペースで穏やかに生活できるように支援している。なるべく部屋でこもりきりにならないよう上手く声掛けし、ホールに出てもらい、利用者同士の交流も大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	能力的に可能な利用者に対しては、コミュニケーションを取りながら、一緒に服選びを行っている。できない利用者に対しては、本人の好み沿うように本人本位に考え、支援している。毎月施設へ散髪に来てもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや体調に合わせて、随時食事形態や内容を変更・改善している。季節に応じたメニューや利用者の好みを取り入れたメニューやおやつを提供し、「おいしく楽しく食べる」ことのできるように努めている。	誕生日の時は、利用者にはリクエストを聞き提供している。らっきょうや梅干を利用者と一緒で作って、食卓に一品盛り付ける事もある。収穫したもので食卓を賑わすため、グリーンカーテンやプチトマトにも挑戦していて、色とりどりの花を咲かせている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を毎回記録して、必要な食量や水分量を摂取できているかチェックしている。身体状況に合わせて食事形態を変更し、必要な栄養をできるだけ口腔から摂取できるよう支援している。水分摂取を拒否する利用者に対しては、原因を考え、種類や形態を工夫し、出来る限り摂取できるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きへの声掛け・誘導を行い、食後にはきちんと行えるように取り組んでいる。一人ひとりの残存機能に応じた口腔ケアの支援を行っている。その際に口腔内の状態や義歯のチェックを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時にはチェック表に記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。個々の状態に応じて、声かけや誘導、介助を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導をしている。排泄の失敗も減り、排泄用品の使用が減った事例もあり、財布に優しい気配りをしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い食材や乳製品を使用する等、食事のメニューを工夫している。便秘がちな利用者に対しては、乳製品を多く摂取してもらったり、水分摂取回数を増加したり、運動を取り入れる等、なるべく薬に頼らずに自然な排便ができるように個々に応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、利用者個々の身体状態・本人の希望に合わせて入浴できるように柔軟に対応している。入浴を拒否される利用者には、職員の変更や時間の変更、家族に協力を得る、言葉かけや対応を工夫したりして、タイミングを見ながら本人のペースに合わせて対応している。入浴の順番や湯加減、個人のシャンプーの持ち込み、色々な入浴剤を使用したりと、楽しく入浴できるように工夫している。	2階には機械浴があり、重度化になっても利用者が不安なく入浴できる設備が整っている。利用者の気持ちに寄り添い、職員や日時を変更するなど、本人が入りたくするための柔軟な対応に心掛けている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状態に応じて、適度に休息していただいている。安心・安楽に休息や夜間の睡眠ができるように、居室内の温度管理や照明の明るさの調節を心がけている。夜間不眠がちな利用者に対しては日中の活動を工夫し、なるべく薬に頼らずに良眠できるような生活リズム作りを支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より一人ひとりの処方されている薬についての説明書をもらい、看護師だけでなく、介護職員も把握できるようにしている。薬の処方が変更された時には申し送りで情報を共有し、状態の経過をしっかりと観察、記録し、その都度、医師へも報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの好きなこと・やりたいことを把握し、出来る限り実現できるように個別に支援を行っている。本人の能力を活かした役割や、季節ごとの行事や誕生日会を行い、楽しみごとが出来るように支援している。コロナウイルス感染防止のため、気軽に外出できない分、室内でも気分転換が図れるように工夫し、集団・個別に支援を行っている。	本人からの意向を大切にしている、餅つきや編み物など、利用者が得意な事で活躍できる場面作りをしている。家族から昔とった杵柄の話しを教えて頂き、できるだけ支援に活かそうとしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止のため、気軽に外出することが出来ないが、出来る範囲で施設周辺を散歩したり、外気浴を行い、季節を感じてもらえるように支援している。また、YouTubeを活用し、室内でも外出した気分を味わえるように工夫している。	施設周囲の散歩を続けていて、近隣の小学校まで歩くこともある。オンラインの映像を流し、室内にいても馴染みの場所を見て、昔話や自慢話で会話を花を咲かしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族と話し合い、本人の能力を考慮した上で少額を持ち、使用できるように支援している。事業所でもお金を預かって管理を行い、必要に応じて日常生活用品や本人の希望するものを購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の能力に応じて、事前に家族の了解を得た上で、手紙や年賀状、電話のやり取りができる様に支援している。又、自由に電話ができるよう携帯電話を所持している利用者もいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高台のため見らしがよく、住み慣れた街の風景や生活風景、自然を感じることができる。ホールは日当たりが良く、風通しも良い。壁飾りを利用者と一緒に作成し、季節感を感じて頂けるように配慮している。その他、花を飾ったり、温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。室温・湿度・換気の管理を行う他、食前・食後には消毒を実施し、安心して生活できるような環境作りを努めている。	高台の施設だけに、リビングは街を一望できる大きな窓を設けてあり、ずっと窓を開けると、心地よい風も入ってきて、嫌なものを外に運び出していただけ。また、季節に応じた作品が、四季の趣から見守られ、リビング内においても心を癒せる春夏秋冬を感じ取れることができる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全室個室により、プライバシーが保たれている。ホールにはテーブル、ソファを設置し、共用空間となっている。面会時の家族とのふれあいや気の合う利用者同士のふれあいの空間となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのある家具や布団、衣類等を持ってきていただき、居心地良く落ち着いて暮らすことのできる居室作りを本人・家族と共に考えている。家族写真や制作した作品、花などを飾り、より本人らしい安心できる空間となるように工夫している。	ベッド、タンス、テレビなどが備え付けられているので、入居の際の準備が少なくても良い。事業所への持ち込みは自由で、本人の落ち着けるものを居室に配置し、自宅との変化が少ない空間を作っている。思い出の写真や品も、自分がいつでも手に取れるように配置され、心まで、清らかに過ごせている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリーになっており、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全に安心して行動できるように配慮されている。居室内の家具の配置は、利用者の状態に合わせて設置し、必要に応じて福祉用具を活用し、安全かつ自立した生活が出来るよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000124		
法人名	有限会社 兼清メディカルサービス		
事業所名	グループホーム浅江		
所在地	山口県光市浅江3丁目1-25		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 9 日	評価結果市町受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力医療機関が同一建物内にあるため、かかりつけ医による月2回の回診や、昼夜問わず特変時の診察や外来受診がスムーズに受けられる体制になっています。また、看護と介護による日々の健康チェックや内服管理を行い、急な体調変化や異変に気付いた際には医師にすぐに報告し、指示を仰ぎ、適切な対応ができるため、本人や家族の安心につながっている。介護と医療が密に情報交換・共有など連携をとり、看取りの支援まで適切な医療が受けられるように支援しています。

利用者一人ひとりが、本人らしく、楽しく、安心した生活を送ることできるように、利用者・家族としっかりとコミュニケーションをとり、良好な関係性の構築ができるように努めています。コロナ感染予防のため、家族の面会に制限があるため、行事や日々の様子の写真をたくさん家族に送ったり、来所時や電話やライン等を活用したりと、様子が分かるように工夫しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3591000124-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18		
訪問調査日	令和 5 年 1 月 19 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が病院なので、医療連携がいつでもできている。何かあればすぐ医療の指示を仰げるから安心である。また、ベテランの専属看護師が7人もいて、介護職と合わせて充実しているの言うまでもなく、学びの場は広がっている。コロナ禍で、面会が厳しくても、利用者の手紙、通信アプリ、一瞬の面会、電話で対応も充実していて、利用者の気持ちに添いやすくなっている。そんな心配りができる職員がいて、利用者とは別けて接することができ、また、ベテランの職員が、若い管理者と同じ目線を以ってバックアップ体制を取り、利用者が安心できる環境作りをしていた。他の施設では、資格だとか常勤だとかで、人間関係が気まづくなることもあるらしいが、「此处では、できることをみんなで助け合って行動している関係性ができていて、全く問題はない。」と、管理者は語ってくれた。また、職員間だけではなく、利用者や家族とも、どんなことも言いやすいし、聞き取りやすい。介護をしてきた看護師さんがほとんどで、介護に理解があり、また、介護を長年頑張ってきただけに、医療看護の重要性をしみじみ腑に落としている。管理者も職員とともに経営理念に向かうベクトル合わせに穏やかさを生んでいた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から職員一人一人が意識できるように事業所理念を掲示し、理念に沿ったケアができるように努めている。毎年、研修にて確認を行い、全職員が共有し、実践できるように努めている。	理念は、3階の廊下の掲示板に貼られている。研修や職員会議で、理念を共有する機会を設けている。研修では理念一つ一つの意味を事例に則って伝達している。	原点に返りながら、良い理念だけに実践に反映できる取り組みを新たに磨いてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板や広報で地域の情報を得ている。例年は地域の文化祭に作品の出展や見学に行ったり、地元の敬老のつどいや、系列施設での行事(地元小学生来訪、ボランティア)に参加したり、職員が地元の中学校である徘徊模擬訓練に参加したりしていたが、今年度はコロナウイルス感染防止のため地域での行事が中止になり、行うことが出来ていない。	自治会に加入していて、自治会長との情報交換も円滑に行えている。地域の行事案内もあり、感染状況に合わせて参加・不参加を決めている。近くにある関連事業所と共同し、地域の社会資源としての役割を担っている。	地域とのつながりの輪をもっと広げてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年は運営推進会議の場面や施設への来訪時に利用者の方と関わりながら理解を深めて頂けるように努めていたが、今年度はコロナウイルス感染防止のため、面会の制限があり、積極的に行うことが出来ていない。また、職員が地元の中学校である徘徊模擬訓練に参加し、講師として協力していたが、今年度は参加できていない。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について説明し、理解した上で、自己評価シートを全員に配布し、記入してもらっている。記入されたものを管理者がまとめて、出来上がったものを全職員で確認して作成している。外部評価で指摘された項目については目標達成計画を立て、職員や推進会議メンバーと話し合っており、改善に向けて出来ることから取り組んでいる。	自己評価を全職員に記入してもらうことで、職員一人ひとりが自らのケアを振り返る機会となっている。外部評価の結果を基に、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の状況や行事報告・行事予定、ヒヤリハット・事故報告、外部評価の結果報告等を行い、意見交換を行っていたが、今年度はコロナウイルス感染防止のため、集まるための会議を行うことが出来ておらず、文書の配布のみになっている。	委員は、市職員、自治会長、民生委員、介護相談員、認知症の家族を支える会会長、各ユニットの利用者家族、関連グループホーム職員となっている。今年度は、感染症の蔓延防止のため、書面開催としている。	
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席時や、役所へ出向いたときに直接意見・情報交換を行っている。問題や相談があるときにはその都度電話で連絡を取り、密に協力関係が築けるようにしている。	市への連絡・相談窓口は、管理者が行っている。市の担当者とは、気軽に何でも相談できる関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修や身体拘束適正化のための検討会議を行い、職員全員が正しく理解し、身体拘束をしないケアを意識して支援に取り組んでいる。利用者個々の状態や行動パターンを理解した上でケアを行い、拘束しなくても安全が確保できるように職員同士が連携しながら日々のケアに取り組んでいる。	研修を年に1回、委員会を3ヶ月に1回開催し、拘束ゼロに努めている。退院時に状態が変わることもあり、拘束が起きない方法を全職員で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、職員全員が正しく理解できるよう取り組んでいる。虐待のサインを見逃さないよう入浴時や着脱時の身体チェックを行っている。気になる言動があった場合には管理者が指導している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について研修を行い、職員全員が正しく理解できるように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回相談時に事業所の詳細についての説明や、見学をしていただいている。契約時には入所にあたっての不安や疑問点について確認し、理解・納得を得られるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談や苦情の受付体制、処理手続きなどを家族に説明している。面会に来られた際に、職員から積極的に声掛けを行い、利用者について近況報告や、相談したりと気軽に意見や要望が言えるような関係性作りを努めている。コロナウイルス感染防止のため面会が制限されており、家族には電話やメールなどでこまめに連絡をとるようにしている。家族からの意見や要望は申し送りノートを活用して職員間で共有している。	小さな気付きでも家族へ電話で伝えていて、家族との絆を大切にしている。本人の嗜好も年齢と共に変化するので、差し入れの前に連絡することで喜んでもらっている。家族が差し入れに訪問した時、日ごろの様子も伝えている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や毎日の申し送り時に、業務内容や利用者へのケア内容について話し合う機会を設けている。職員の中で出た意見や要望があれば、その都度検討したり、毎月の重役会議で検討を行い、代表者へ報告するようになっている。	日常の会話の中で、勤務の希望などをさりげなく聞き取っている。重役会議には、各事業所の管理者や統括、医師、事務長が参加し、職員の思いを報告しているので、反映しやすい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の力量や勤務状況を把握し、それに応じた勤務内容や勤務形態にし、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会を開催していたが、コロナウイルス感染防止のため開催できていない。また、系列の病院での研修会にも参加していたが、感染防止のため参加できていない。職員会議時に内部研修を行っている。外部での研修は職員に情報を伝え、受ける機会を提供しており、研修に参加した後は、研修記録を作成し、職員会議時に復命をし、全職員が共有できるように取り組んでいる。	新人職員の教育については、1ヶ月以上は担当職員と一緒に勤務をして、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。感染対策を講じながら内部研修を開催し、研鑽に努めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年はグループホーム連絡協議会や外部での研修へ職員が参加する機会があったが、今年度はコロナウイルス感染防止のため、参加することが出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者や家族と面談を十分に行い、本人、家族の希望や要望、不安などを聞きとり、要望に合わせたサービスの提供ができるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を行い、家族の困っていること、不安、要望をしっかりと聞き、少しでも不安が解消し、安心してサービスを受けて頂けるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時、十分な話し合いを持ち、本人と家族のニーズをしっかりと見極め把握し、必要としているサービスを提供できるよう努めている。必要に応じて、サービス内容の変更にも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの身体状態に合わせて、出来ることを利用者と職員が一緒になって行っている。又、コミュニケーションを大切にし、利用者についてより理解し、分かりあえる関係性作りに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には職員から積極的に声掛けを行い、利用者の近況報告したり、相談したりと気軽に意見や要望が言えるような関係性作りに努めている。コロナウイルス感染防止のため面会の制限があり、家族へ電話やメール、ラインでこまめに近況報告をする他、行事や日々の様子の写真をたくさん送ったり、ホームページに写真を掲載したりして情報共有に努めている。職員では対応出来ない状況の時には家族へ相談し、協力して頂いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止による面会制限・外出制限があるため、直接的には難しくなっているが、手紙や年賀状のやり取り、携帯電話の使用、電話の取次ぎ等をできる範囲で行い、馴染みの関係が途切れないように努めている。	利用者同士が顔馴染みの関係となっていて、2ユニットが合同で行事をしている。また、関連グループホームへの行事参加もあり、法人内で馴染みの関係が作れている。入居してからの新しい馴染みの関係作りが出来ている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係性を十分に理解し、孤立せず、良好な関わり合いを持つことが出来るよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した場合でも、連絡を取り合い、必要に応じて相談や支援を行い、本人が安心できる生活環境作りの手助けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前には本人・家族に生活歴や趣味の聞き取りを行い、関わる職員は把握するように努めている。また、日々の関わりの中で意向や要望が出れば、申し送り等で情報共有し、出来る限り意向に沿うようにしている。日頃からコミュニケーションを大切にし、何でも話せるような関係性を築けるようにしている。	意向の把握は、日々のケアから見つけ、職員同士で情報を共有し、利用者にとって心地よい関わりにつなげている。若い時、「カラオケによく行った。」「編み物が好きだった。」などが聞け、アクティビティの参考にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で聞き取りを行ったり、生活歴や暮らし方、趣味等をアンケートを行い、これまでの暮らしについて情報収集している。また、日頃の会話の中で本人から直接聞いたり、家族・知人から情報収集を行い、その人らしい暮らしが継続できるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、状態を記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。特変があった場合には「介護・看護記録」に詳しく記録する他、申し送りノートにも記入し、情報共有できるように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向に沿うよう、医師・看護師など多職種の意見を参考にして、担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直し、変更をしている。状態変化があった場合には、その都度、再アセスメント、担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。	新規利用者は、暫定プランを作成し、1ヶ月程度で見直しをしている。医師や看護師もプラン作成に協力的で医療面での意見を聞けていて、プランに活かしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容は個別に記録をする他、申し送りノートにも記入し、全職員が把握できるようにしている。個別の記録をもとに、介護計画を作成、見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせて、その都度本人や家族の意向を聞き、都合やニーズに合わせて柔軟に対応している。また、定期的なモニタリングや再アセスメントを行い、現時点のニーズを把握できるように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は、系列施設での行事や小学生来訪時には積極的に参加したり、ボランティアの受け入れ、地域行事の参加を行っていたが、今年度はコロナウイルス感染防止のため、地域との協働を行うことが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一建物内にある医療機関がかかりつけ医で、月2回の訪問診療を受けられる。特変があった場合には、日中・夜間問わず医師へ連絡し、指示を仰いで対応したり、状態によっては診察をしてもらう等、適切な医療を受けられる体制がある。家族へは面会時や電話で身体状態について報告している。他科への受診は家族へ協力してもらっているが、困難な場合には職員が受診支援を行っている。また、毎月、協力医療機関と合同で会議を行い、医療連携の強化に努めている。	母体が病院なので、緊急時は日中・夜間問わず、いつでも医師へ報告・相談が出来る。状況によっては、夜間でも医師が訪問してもらっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職による毎日の健康チェックや状態観察を行い、異変の早期発見に努めている。同一建物内に医療機関があり、特変時にはすぐにかかりつけ医や看護師に報告し、指示を仰いで対応したり、状態によっては受診・回診にて診察を受けられる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、職員が付き添いを行い、日頃からの状態や状況の変化についての情報を直接提供するようにしている。入院中には病院関係者や家族と連絡を密にとり、治療の経過や本人の状態についての情報共有を行うようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての指針を家族に説明している。終末期には、再度意向の確認をし、本人、家族の要望に沿った対応ができるように、医療機関の協力のもと、出来る限り対応している。状況の変化に迅速に対応できるよう、家族とこまめに話し合いを行い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	契約時には家族に理解できるように伝えている。重度化になると、本人・家族の意向を聞き、主治医や看護師の意見を聞きながら、想いに沿った対応をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	ヒヤリハット・事故報告書にその場にいた職員が状況を記録し、今後の対応策を検討している。他職員へは申し送りや報告書を回覧し、全職員が共有できるようにしている。また、毎月、事故対策会議を行い、利用者の身体状況に応じた事故予測や防止策を考え、再発防止に努めている。事故対応が出来るよう、内部研修にて心肺蘇生法や転倒・転落・誤薬時の対応についての研修を行い、全職員が知識や技術を身につけることできるように取り組んでいる。	月に1回事故対策会議を開き、事故報告書・ヒヤリハット報告書の内容について話し合っている。会議で話し合った対応方法を全体に周知し、再発防止に努めている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災を想定した避難訓練、消火訓練、通報訓練を利用者と一緒実施している。災害の際には、同一建物内にある医療機関や系列施設の協力体制がある。火災時の消防署へ直通の通報装置の設置や職員の緊急連絡網の設置をしている。また、自治会長さんへ相談し、災害時要支援者リストへ当施設も入れていただいている。	ハザードマップ上では、災害区域から外れているが、飲料水、冷凍ご飯、スープなど5日分の備蓄をしている。備蓄食品は、賞味期限を管理し、更新している。賞味期限が近くなった時は、試食して防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報とプライバシー保護についての研修を行い、職員全員が正しく理解できるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりのその人らしさを大切に、その方に合った対応を心がけている。また、言葉遣いには気をつけ、自尊心を傷つけないように注意している。	呼称は基本的に苗字に「～さん」を付けている。同姓の利用者がいる場合は、下の名前に「～さん」を付けて混乱しないようにしている。利用者からの要望は家族と相談して確認を取って呼称している。個人的に話をする時は、プライバシーに配慮して居室へ誘ってマンツーマンで話をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で、利用者が何でも言いやすいような関係性や雰囲気作りを心がけている。利用者が希望を表すことのできるように声かけを行い、自らが決めてもらえるような支援を行っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを把握し、個々のペースで穏やかに生活できるように支援している。なるべく部屋でこもりきりにならないよう上手く声掛けし、ホールに出てもらい、利用者同士の交流も大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	能力的に可能な利用者に対しては、コミュニケーションを取りながら、一緒に服選びを行っている。できない利用者に対しては、本人の好み沿うように本人本位に考え、支援している。毎月施設へ散髪に来てもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや体調に合わせて、随時食事形態や内容を変更・改善している。季節に応じたメニューや利用者の好みを取り入れたメニューやおやつを提供し、「おいしく楽しく食べる」ことのできるように努めている。	誕生日の時は、利用者にはリクエストを聞き提供している。らっきょうや梅干を利用者と一緒で作って、食卓に一品盛り付ける事もある。収穫したもので食卓を賑わすため、グリーンカーテンやプチトマトにも挑戦していて、色とりどりの花を咲かせている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量を毎回記録して、必要な食量や水分量を摂取できているかチェックしている。身体状況に合わせて食事形態を変更し、必要な栄養をできるだけ口腔から摂取できるよう支援している。水分摂取を拒否する利用者に対しては、原因を考え、種類や形態を工夫し、出来る限り摂取できるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きへの声掛け・誘導を行い、食後にはきちんと行えるように取り組んでいる。一人ひとりの残存機能に応じた口腔ケアの支援を行っている。その際に口腔内の状態や義歯のチェックを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時にはチェック表に記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。個々の状態に応じて、声かけや誘導、介助を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援している。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導をしている。排泄の失敗も減り、排泄用品の使用が減った事例もあり、財布に優しい気配りをしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い食材や乳製品を使用する等、食事のメニューを工夫している。便秘がちな利用者に対しては、乳製品を多く摂取してもらったり、水分摂取回数を増加したり、運動を取り入れる等、なるべく薬に頼らずに自然な排便ができるように個々に応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、利用者個々の身体状態・本人の希望に合わせて入浴できるように柔軟に対応している。入浴を拒否される利用者には、職員の変更や時間の変更、家族に協力を得る、言葉かけや対応を工夫したりして、タイミングを見ながら本人のペースに合わせて対応している。入浴の順番や湯加減、個人のシャンプーの持ち込み、色々な入浴剤を使用したりと、楽しく入浴できるように工夫している。	2階には機械浴があり、重度化になっても利用者が不安なく入浴できる設備が整っている。利用者の気持ちに寄り添い、職員や日時を変更するなど、本人が入りたくするための柔軟な対応に心掛けている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状態に応じて、適度に休息していただいている。安心・安楽に休息や夜間の睡眠ができるように、居室内の温度管理や照明の明るさの調節を心がけている。夜間不眠がちな利用者に対しては日中の活動を工夫し、なるべく薬に頼らずに良眠できるような生活リズム作りを支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より一人ひとりの処方されている薬についての説明書をもらい、看護師だけでなく、介護職員も把握できるようにしている。薬の処方が変更された時には申し送りで情報を共有し、状態の経過をしっかりと観察、記録し、その都度、医師へも報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの好きなこと・やりたいことを把握し、出来る限り実現できるように個別に支援を行っている。本人の能力を活かした役割や、季節ごとの行事や誕生日会を行い、楽しみごとが出来るように支援している。コロナウイルス感染防止のため、気軽に外出できない分、室内でも気分転換が図れるように工夫し、集団・個別に支援を行っている。	本人からの意向を大切にしている、餅つきや編み物など、利用者が得意な事で活躍できる場面作りをしている。家族から昔とった杵柄の話しを教えて頂き、できるだけ支援に活かそうとしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止のため、気軽に外出することが出来ないが、出来る範囲で施設周辺を散歩したり、外気浴を行い、季節を感じてもらえるように支援している。また、YouTubeを活用し、室内でも外出した気分を味わえるように工夫している。	施設周囲の散歩を続けていて、近隣の小学校まで歩くこともある。オンラインの映像を流し、室内にいても馴染みの場所を見て、昔話や自慢話で会話を花を咲かしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族と話し合い、本人の能力を考慮した上で少額を持ち、使用できるように支援している。事業所でもお金を預かって管理を行い、必要に応じて日常生活用品や本人の希望するものを購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の能力に応じて、事前に家族の了解を得た上で、手紙や年賀状、電話のやり取りができる様に支援している。又、自由に電話ができるよう携帯電話を所持している利用者もいる。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高台のため見らしがよく、住み慣れた街の風景や生活風景、自然を感じることができる。ホールは日当たりが良く、風通しも良い。壁飾りを利用者と一緒に作成し、季節感を感じて頂けるように配慮している。その他、花を飾ったり、温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。室温・湿度・換気の管理を行う他、食前・食後には消毒を実施し、安心して生活できるような環境作りを努めている。	高台の施設だけに、リビングは街を一望できる大きな窓を設けてあり、ずっと窓を開けると、心地よい風も入ってきて、嫌なものを外に運び出していただけ。また、季節に応じた作品が、四季の趣から見守られ、リビング内においても心を癒せる春夏秋冬を感じ取れることができる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全室個室により、プライバシーが保たれている。ホールにはテーブル、ソファを設置し、共用空間となっている。面会時の家族とのふれあいや気の合う利用者同士のふれあいの空間となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのある家具や布団、衣類等を持ってきていただき、居心地良く落ち着いて暮らすことのできる居室作りを本人・家族と共に考えている。家族写真や制作した作品、花などを飾り、より本人らしい安心できる空間となるように工夫している。	ベッド、タンス、テレビなどが備え付けられているので、入居の際の準備が少なくても良い。事業所への持ち込みは自由で、本人の落ち着けるものを居室に配置し、自宅との変化が少ない空間を作っている。思い出の写真や品も、自分がいつでも手に取れるように配置され、心まで、清らかに過ごせている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリーになっており、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全に安心して行動できるように配慮されている。居室内の家具の配置は、利用者の状態に合わせて設置し、必要に応じて福祉用具を活用し、安全かつ自立した生活が出来るよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない